

文部科学省委託事業

専修学校による地域産業中核的人材養成事業

「様々な問題を抱える高等専修学校生が
社会人として定着するための
地域ネットワークシステム構築事業」

成果報告会資料

2019,2,27



事業の名称

「様々な問題を抱える高等専修学校生が社会人として定着するための地域ネットワークシステム構築事業」

事業の目的

様々なバックグラウンドのある高等専修学校生が、地域・外部機関との効果的な連携を通じて、多様な価値観・視点を踏まえながら、自信をもって安定的な職業生活を送ることにつながる教育手法（カリキュラム）に関するモデルを構築する。

事業の趣旨

様々な問題を抱え入学してくる高等専修学校生が増えてきている。しかし、これら生徒の諸問題は生徒個人で解消できる問題ではなく、その多くは家庭環境や経済的な問題も多く学校単体では対応できないものが含まれている。

さらに、これら生徒を指導する教員数は少なく教員一人当たりの負担は増大している。

そのような状況を受け、本事業では彼らを取り巻く環境に係わる機関と連携し、お互いのもつ情報を元にそれぞれの機関から働きかけ、学校や各機関単独では難しい状況の解消を期待して、互いに連携の取れるネットワークを構築する。

並行して、進路決定の効率を上げるため、より早く進路に対する目標の設定をさせ、必要な基本スキルを自覚し身に付けさせる。そのため、協力企業その他ハローワーク、サポートステーションとタイアップし職業教育に必要な基本スキルをアップさせ生徒たちの進路に対する意識改革をおこなえるカリキュラムの開発と、高等専修学校を囲むネットワークを構築する。

当該モデルが必要な背景

- 1) 本校では入学希望者の志望動機と受験時期を見ると、将来を見据え専門授業に魅力を感じ入学をする生徒がいる反面、これまでの学校生活や集団生活になじめず進路選択で本人の第一志望ではなく入学する生徒も多く在籍する。
- 2) 学校生活を送る中で様々な諸問題（性行不良・不登校・発達障がい等の疑い・経済的困窮家庭等）を抱え安定した学校生活を送ることが困難な生徒が多く在籍しているのが現状である。
- 3) 子供をよりよくサポートするためには、その子供たちを取り巻く環境（地域・家庭・交友関係）まで考えた指導が必要である。特に重要な項目として挙げられるのは、それまでの学校・保護者の関わり方であると考えます。しかし、各機関ではそれぞれの生徒に関わる範囲が限定されているため、連携できていないのが実情である。
(個人情報保護等)
- 4) 本校で、平成25年26年に文科省委託事業として行った「中核的専門人材養成の戦略的推進事業」の際に高等専修学校生が進路決定の際に必要なスキルを検証した結果、社会の求める人材と就職を希望する生徒の意識とが大きくミスマッチしているということに至った。
- 5) ここ数年の生徒のキャリア授業の考察と各企業の声からコミュニケーションの能力強化が必要であると考えます。

「様々な問題を抱える高等専修学校生が社会人として定着するための地域ネットワークシステム構築事業」

事業実施体制

実施委員会

情報共有ネットワーク構築分科会

在籍する生徒を取り巻く環境まで考慮した総合的支援体制の確立を目指し、高等専修学校生を中心とする学校・地域・行政が一体となったサポート体制の確立を目指す。
高等専修学校を取り巻くネットワークシステム「チーム高等専修学校」の構築。

【連携組織】 高等専修学校
地元中学校
関連行政機関

職業教育スキルアップカリキュラム構築分科会

職業教育に必要なスキル(社会常識およびビジネスマナー等)の学習カリキュラムの作成のための調査を行い身に付けるためのプログラムを開発する。
連携企業を構築し、就業に結び付く支援システムを開発する事で安定した出口の確保を目指す。

【連携組織】 若者サポートステーション
ハローワーク
連携企業

○高等専修学校と外部とのネットワーク化の推進

【各機関と連携体制を組み恒常的に情報交換できるネットワークの確立】

- ・進学してきた生徒と、新たに信頼関係の構築から始め指導方法を模索していた学校側が、その生徒を取り巻く各機関と連携することにより、いち早く、また確実に情報を把握することができる様にしたい。

メリット

- ① その情報をもとに、各生徒個人に対応した指導方法を早い時期から確立できる。
- ② それまで個別で行っていた対応方法を連携させることで、各生徒に合わせて多角的に判断することができる。
- ③ 個別の機関のみでは対応できなかった事象を、別の対応できる(係わっている)機関がその機関に代わり対応することができるのではないか。
例) 学校では指導の難しい家庭環境等の改善点などを、関係連携機関と相談することが出来たり、実際に関係機関から働きかける、改善方法を検討するなど、生徒の学校生活が安定につながると考える。

《現状での課題》

- ① 各機関で個別に対応するため、情報の共有や連携が皆無である。
- ② 個人情報保護の観点から、担当者によって情報の把握が難しい。
- ③ 各機関の担当者によっては高等専修学校への認知度も低い。
- ④ 高等専修学校の取り組みを理解せず機関によっては学校を優先しない場合もある。



《課題に対する具体策》

- ① 各機関との情報交換の機会の設定
- ② 各家庭と連携した生徒の状況聞き取り機会の制度化
- ③ 相互で相談、状況確認できる関係の構築を目指す。
- ④ 高等専修学校の理解度向上のための、仕組みと学校の生徒への取り組みの告知

これらすべての情報を記入したカードの作成



『個人指導計画ファイル』の作成

職業教育スキルアップカリキュラム構築分科会

【高等専修学校生に適した職業教育カリキュラムの構築】

- ・ 高等専修学校生が将来安定した社会生活を送るためには、職業教育である専門の技術習得のための学習はもとより、社会生活を行う上での最低限必要な「ビジネスマナー」や企業に属する一員としての良好な人間関係を築けるコミュニケーションスキルを身に着けさせることが重要と考えられる。
特に必要性の感じられる「コミュニケーション能力」について重点的に学習することが急務と考えられる。

メリット

これらのスキルを向上させる内容を盛り込んだカリキュラムの構築を行い、生徒たちに身に着けさせることが出来れば、就職・進学のスームズなスタートが期待できる。

結果、企業人として安定した社会生活を送る事が出来、その分離職率も変化するのではないだろうか。

《現状での課題》

- ① 本人の希望と現状の高校生求人との乖離が大きい。
- ② 企業の高等専修学校に対する認知度が低い。
- ③ 本人のビジネスマナー・社会常識の未熟さと意識の低さ。
特にコミュニケーション能力の低さが問題となっている。



《具体策》

- ① 就職に必要と考えられるスキルを向上するためのプログラムの構築
(企業・サポートステーションから見た必要なスキルの調査・考察・情報交換の機会を設定)
- ② 高等専修学校の仕組みを協力企業に理解してもらうための働きかけ
- ③ 協力企業によるインターンシップの実施
(生徒の事前・事後アンケートと、企業からの意見を基にした本人への事後指導などの活用)
- ④ 高等専修学校版ジョブカードの再検証と活用機会の開発
(企業・ハローワークと連携し「改良版ジョブカード」の作成)
- ⑤ サポートステーションと連携し高等専修学校生への就業意識改革の為の講演の実施

今年度の具体的活動

情報共有ネットワーク構築分科会

1) 中学校その他行政との連携方法と聞き取り内容の検討

1. 情報共有ネットワーク構築分科会にて、中学校側から他校の聞き取り実績やその内容を発表し委員全員で確認できた。
2. 中学校と小学校間の情報の引継ぎ事例を発表した。
3. 支援が必要な生徒の在籍状況と引継ぎの際の問題点と留意事項を確認できた。

2) 高等専修学校としての取り組み事案の協議

1. 各校から事例の情報提供及び意見交換
情報共有ネットワーク構築分科会にて、入学時在校生への聞き取りを実施している協力高等専修学校から実際のアンケートを提供してもらい情報提供を得ることができた。
2. 連携の際に我々高等専修学校が得たい情報について意見をいただき、その内容を検討できた。この意見を生かし次年度以降の情報提供内容について検討したい。

職業教育スキルアップカリキュラム構築分科会

1) 協力企業インターンシップの実施準備

1. 協力企業の実施しているインターンシップの現在の状況について企業側からの意見を聞きとり調査した。
2. 「コミュニケーションスキル」の向上を重点目標としたカリキュラム再構築のため各企業・団体から聞き取り調査を行った。
同時に、企業側から見た新採用者の問題点を詳しく聞きとり調査した。
3. 企業側から見たインターンシップ時の問題点や学校側への希望などを具体的に検討することができた。
4. 企業側からの案として、インターンシップ前研修会の実施案が出た。次年度以降の新たな検討案として引き継ぎたい。

2) 3年生向け進路意識アンケート調査の実施

1. アンケート実施等による調査協力
高等専修学校3年生対象の「進路アンケート」を実施した。現在の3年生が進路選択の際に抱えている問題点や意識などを把握することができた。
この結果を踏まえ、次年度以降のカリキュラム構築の際の狙いを絞る。

事業実施の年次計画

2018年度

全体目標：各連携組織との事業方針の周知
事業の概要、目的、高等専修学校の実情などの共通理解

目的：生徒個人カード草案の作成

- 1) 中学校やその他行政との連携方法と聞き取り内容の検討
・生徒の調査依頼項目を「個別の支援カード」を参考に各機関と検討し決定する。
・個人情報等を踏まえた調査・聞き取り方法の検討
・中学校、行政機関との面談時期を検討し決定する。

- 2) 上記検討事項を踏まえた生徒個人カードの草案作成
・「高校版個別の支援計画」の書式を基に検討する。

成果物：個人カード草案

目的：次年度送付アンケート草案検討

- 3) 各高等専修学校へのアンケートの草案作成
・現状を把握するアンケートの設問内容の検討・草案検討。
・アンケート送付対象校の協議

2019年度

全体目標：各連携組織と連携したカリキュラムの一部実施
昨年度調査作成した結果を踏まえたカリキュラムの実施

1) 連携の試験的運用

- ・生徒の調査依頼項目の確定及び記入マニュアル化
- ・中学校、行政機関との面談の実施
- ・連携の試験運用の成果検証・改善

成果物：連携運用マニュアル

2) 生徒個人カードの試験的運用

- ・生徒個人カードの内容の確定及び試験的運用・問題検証

成果物：「個人指導計画ファイル」準備

3) 各高等専修学校へのアンケート実施

- ・アンケートの送付および結果の集計及び考察
- ・内容について各校からの意見の考察及び改善をおこなう。
- ・過去の連携実態、事例の集約。事例集作成準備

成果物：アンケート考察・事例集

2020年度

全体目標：各連携の実施システム導入
運用のマニュアル化と本校での運用開始

最終目標：近隣中学校・機関とのシステム運用化

1) 連携システムの活用・導入

- ・連携運用マニュアルを活用したシステムの活用
- ・中学校、行政機関との面談の実施
面談時期の年間予定への組み入れ

最終目標：生徒個人カードの活用

2) 生徒個人カードの運用実施

- ・各生徒の「生徒個人カード」の作成・活用
「個人指導計画ファイル」への統一準備
- ・協力校からの意見考察・改善

3) 各高等専修学校の対応事例集作成

- ・過去の連携実態、事例を基に事例集の作成

最終成果物：個人計画ファイルの完成

情報共有ネットワークの構築

スキルアップカリキュラムの構築

目的：スキルアップカリキュラム草案の作成

- 1) ジョブカード再検証のための聞き取りを行う
・高等専修学校での活用を考慮し内容を再構築する。
・記載内容検討のための企業、団体との意見交換を行う。

2) スキルアップカリキュラムの草案の作成

- ・「コミュニケーションスキル」の向上を重点目標としたカリキュラムの再構築するための各企業・団体からの聞き取り調査。

成果物：カリキュラム重点目標協議

3) 協力企業インターンシップの実施準備

- ・インターンシップの成果検証のための各アンケートの草案作成

成果物：インターンシップ実施時の問題点の協議

1) 改訂版ジョブカードの試験的運用

- ・検討したジョブカードを本校カリキュラム内で運用し、問題点等を各機関と意見交換する。
- ・記載内容について協力企業からの評価を検証する。

成果物：改定版ジョブカード

2) スキルアップカリキュラムの草案の作成

- ・スキルアップカリキュラムの開発と実証
- ・生徒アンケートの実施・結果検証。

成果物：スキルアップカリキュラム草案

3) 協力企業インターンシップの実施

- ・成果検証アンケートの実施・評価および検証

成果物：実施要項及びアンケート検証結果

1) 改訂版ジョブカードの完成・実証

- ・本校キャリア授業へのジョブカードを活用したプログラムの導入及び実証
- ・「個人指導計画ファイル」への統一準備
- ・進路指導に活用、活用した就業の実証

2) スキルアップカリキュラムの導入

- ・スキルアップカリキュラムの導入とその実証
- ・検証用生徒アンケートの完成及び実施

3) 協力企業インターンシップの年間制度化

- ・インターンシップの年間予定への制度化
- ・進路と連携したアンケートの評価・活用方法の完成
- ・ノウハウを活用した協力企業の拡大